

2023年度 自己評価報告書

学校法人京都南カトリック学園
青谷聖家族幼稚園

1. 教育目標

聖書に基づいたキリストの教えを基本理念として保育している。

育てたい幼児像

- ・神と人と自然を大切に子ども
- ・心も体も健康で明るい子ども
- ・思いやりと感謝の心を持つ子ども
- ・主体性のある子ども
- ・創造豊かな子ども

2. 本年度の重点目標

- ・遊びを大切に保育
- ・チーム保育の充実

教職員全員が園児全員の事を共通理解し、幼児や保護者とのコミュニケーションを取り、援助する

①食育の充実 栽培から調理まで子ども達と取り組めるようなカリキュラム作り

②園外保育は季節を感じながら公園、堤防歩き。

周辺散歩や電車乗車体験、買い物体験を通して交通ルールや社会ルールを身に付ける。

③子育て支援活動の充実

毎週月曜日の園庭、子育て支援室の開放。

月2回土曜日の施設開放、イベントの開催。

④子どもの主体性が育つようなカリキュラムの構成

“自由な日”（子どもが自分でやりたいことを見つけて、自由に行動できる日）を複数日設けて園児が一日の見通しをもって行動できるようにする。

行事は園児中心に計画、実行できるようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	食育の充実	A	<ul style="list-style-type: none">・畑の土作りから、苗の買い出し、水やり、草抜き、収穫など野菜作りの一連の作業を体験できた。上手く育たない野菜もあったので、次年度検討する必要がある。・クッキングは収穫した野菜を使って旬を知り、不足分は買い出しに行き食への関心を深められた。・お泊まり保育の夕食は子どもの要望を取り入れ、餃子、カレーなど班ごとに新しいメニューに取り組んだ。・味噌汁やスープ作りは切るだけの作業で子どもにとって達成感がなく、次年度は作り方を検討した方がよい。・お店屋さんごっこでは12月、3月と2回することが出来た。・節分では恵方巻を作り、恵方に向けて黙って食べる体験をし、季節行事の理解を深めた。・3学期にパスタ、うどん作りが出来た。 <p>◎野菜を育てたり、足りないものは買い物に行き、自分で調理をすることの経験を積み重ねて食への関心、興味がどんどん深まったので次年度も継続的に取り組んでいきたい。</p>
②	園外保育の取り組み	B	<ul style="list-style-type: none">・堤防歩きやドングリ拾い、電車乗車もでき、色々な経験が出来た。・今年度も年長児は立木観音の階段800段を上ることが出来た。・今年度は宇治植物園に場所を変えてスタンプラリーを行なったが4.5歳児の混合チームで協力する姿も見られた。地図をみて目的地に行くことは年長のお別れ遠足にも役立った。・田辺教会、聖愛幼稚園を訪問し、他の幼稚園とも交流できた。 <p>◎昨年よりも回数は増えたが気温がかなり高かったので堤防歩きなど距離があることが少なくなった。次年度は時期や場所を検討する必要がある。今年度は教会訪問やスタンプラリーの場所変更など新しいことにも挑戦できた。</p>

③	子育て支援活動の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は月2回程度であった月曜日の施設開放を毎週に増やして、園庭、ひよこ組開放を行なった。チラシや口コミで少しずつ利用者も増えてきた。制作等は次年度からなくして施設開放だけでよいと思う。 ・土曜日の子育て支援のイベントではミニ運動会やスタンプラリーが人気でたくさんの方が来て下さった。スタンプラリーの場所は次年度検討した方がよい。 ・ひよこ組は4月から始め、2歳の誕生日を迎えた人が入れるようにした。 <p>◎子育て支援の充実をはかるとともに、園児獲得にも一役買っているので今後も充実をはかっていきたい。</p>
④	主体性の育つようなカリキュラムの構成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・“自由な日”は昨年より回数を増やしたことにより、子どもたちは毎回楽しみにし、時間の使い方も上手になっていた。廃材工作は時間をかけることができるので、満足できるものが出来、普段に比べてクオリティも高かった。“自由な日”に毎回課題を取り入れていたが、運動的なものを取り入れる事によって室内から出なかった子どもが外に出るきっかけになったので今後も取り入れるといい。 ・行事(宿泊保育、運動会、お店屋さんごっこ、おもちゃつき、クッキングなど)は準備や買い物から出来るだけ子どもたちで行なえるようにした。 ・全園児の廃材工作の作品を3月の参観時に見てもらい年齢の違いを見てもらえたと思う。 <p>◎子どもたちが主体的に行動できるようなカリキュラム(自由な日や保育での子どもの意見の取入れなど)を次年度も取り組んでいきたい。</p>

4 総合的な評価

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も4つの重点目標について、職員会議を重ねることで色々なアイデアが出るようになり、パスタ作りなど新しい事にも挑戦出来た。先生も子ども達も楽しみながら保育に参加出来たと思う。 ・昨年よりも買い出しが気軽に行けるようになり、クッキングの準備から参加でき、関心が深まった。 ・園外保育は回数も増え電車乗車もできた。猛暑の為、堤防を歩いたり、距離を歩くことが少なかったため次年度は時期を検討する必要がある。スタンプラリーで地図を見て目的地に行く経験し、年長児はお別れ遠足に経験が活かされた。 ・職員が何でも用意するのではなく、出来ることは子どもたちも一緒にすることによって、子どもたちが行事などに関心をもち満足して幼稚園生活に取り組めたと思う。 ・子育て支援活動の取り組みは園庭解放などの情報をチラシで知らせたり、インスタグラムなどでお知らせするなどして、少しではあるが利用者がふえた。 ・2歳児クラスの開設で9月11名、11月2名、1月1名の入園があり、早い段階で入園者を獲得できた。

5 今後の課題

1	食育	学年ごとに目標を設定し、3年間で出来ることを増やして食への関心をもっと深めていく
2	主体性のある保育	園児の声を取り入れていく保育を模索 主体的に取り組めない園児へのサポート
3	園外保育	社会体験を通して、ルールやマナーを身に付ける 歩くことで強い足を作る
4	子育て支援活動の充実	広報活動の強化、地域の人たちに楽しんでもらえる活動の模索 子育て支援からの園児獲得

評価基準	S 特に他の模範となる
	A 十分に達成されている
	B 達成されている
	C 少し改善した方がよい
	D 改善が必要